

私たちの町「山都」

高校生編

山都町には、熊本県立矢部高等学校（以下「矢部高校」）があります。普通科では、国公立大学など上級学校への進学を目指し、食農科学科、緑科学科では、農林業に関する専門的な知識や技術を身に付けることができます。少子化や人口減少の影響を受け、入学者は年々減り続けていますが、少人数であることのメリットも大きく、矢部高校の魅力が再認識して志望する生徒も増えています。

そんな矢部高校に通う現役高校生に、これからの未来を担う世代として、山都町での暮らしや高校生活にどんな魅力を感じ、どんな課題があると感じているのか、話を聞きました。

まず最初に、矢部高校の魅力や特色を教えてください。

奈須雅幸くん（以下「奈」） 全国の公立高で唯一の二輪車競技部があります。生徒なら誰でも学校で二輪車（原付バイク）の免許を取得出来ます。（※1）

池田涼さん（以下「池」） 入学金や教科書代が無料です。通学支援として交通費の補助もあります。育

友会（※2）からの支援で海外研修に行かせてもらったこともあり、各所からの手厚い支援に恵まれている学校だと思います。

坂本一茶くん（以下「坂」） 生徒数が少ない分、先生が生徒一人一人をしっかり見てくれます。部活でも、たいていレギュラーで試合に出れます（笑）

（※1）矢部高校では、「乗せて指導」を方針として、二輪車競技を通じ、自らの安全運転技術を磨くとともに、周囲にも安全運転の意識と技術を広めている。
（※2）矢部高校保護者によるPTA連合会

山都町で子ども時代を過ごして、よかったですか？
思うのはどんな点ですか？

奈・坂 川や山など遊ぶ場所がたくさんあり、子どもの頃はよく遊んでいました。お金を使わなくても楽しめるので、今でもよく行きます。

大林真子さん（以下「大」） 近所の方々は私が生まれた時からずっと見てくれているので、みんなから大事にされていると感じる時がよくあります。例えば就職が決まった時は、近所の方々みんなで「よかったね」と言ってくれました。私はそんな地元が大好きです。

藤 私も山都町がいいです。高校生までも医療費が無料だし、保育料は安いし、子育て世代への支援が手厚いと思います。

坂 町の雰囲気がとてもいいので、山都町ですと暮らしたいです。

奈 自然が豊かで、空気が澄んでいてとてもいいところなので、山都町にずっといたいんです。

荒木涼音さん（以下「荒」） 私が住んでいる地域にはイベントがたくさんあり、小さい子から高齢者までみんなが参加するんです。私も子どもの頃から参加してきました。自分の出番がない人も応援で参加するし、そんな地域に一体感を感じます。私も自分の地域が大好きです。

山都町での高校生活の様子を聞かせてください。

藤本りえさん（以下「藤」） 学校の周りには美味しい飲食店がたくさんあります。スイーツのお店やラーメン屋、中華料理などオススメのお店ばかりで、どこかへ出かけて行かなくても、地元で十分楽しめます。

坂 夏になると、町内で毎週のように祭りが行われます。9月の頭には八朔祭という江戸時代から続く伝統の祭りがあり、矢部高校生も踊りや大造り物などで参加しています。

池 東京の実家は常に車や電車の音に囲まれていて、家にも落ち着ける時間が少なかったのですが、山都町はとても静かです。耳をすませると鳥のさえずりや木の葉がざわざわとなる音が聞こえてきたりして、そんな音を聞きながら家での

んびりと過ごす時間が好きです。
山都町で好きな場所はどこですか？

坂 通潤橋です。先日学校で通潤橋の本の朗読会に参加し、成り立ちなどを勉強しました。知り合いが来たら、ぜひ案内したいです。

池 池尻の唐傘松の景色も好きです。矢部高校では、毎年春に全校生徒で学校から唐傘松まで歩きます。

荒 山都町の夜はとても静かです。月や星がきれいで、学校から帰って見上げる星空が大好きです。

奈 緑仙峡です。僕の家のおすぐ近くにあります。自然が豊かで、緑川の源流近くなので川の水を飲むことも出来ます。とても美味しい水です。秋の紅葉の景色は、どこにも負けないくらい素晴らしいです。

山都町に、なにか足りないところがありますか？

坂 人が少ないですね。もっと増えてほしいです。

藤 山都町にずっといたいと思う

でも、雇用が少ないです。働く場所が足りないと思います。

あと、CDやDVDを買いたい時や、映画を見たい時は遠い町外まで行かなければいけないので不便です。町内にもそういうお店があればいいのと思います。

池 清和文楽を初めて見に行き、とても楽しめました。地元の食材を使ったお昼ご飯も美味しかったです。もっとたくさんの人に知ってもらえたらいいのになと思います。

池田さんは、東京から単身で矢部高校に入学されましたが、不安はなかったですか？

池 母の実家が山都町で、小さい頃から夏休みになると祖父母の家によく遊びに来ていました。祖父母が農業する姿を見ていて、私もいつか農業してみたいと思うようになりました。山都町の自然豊かな環境が大好きで、矢部高校への入学を希望しました。祖父母がいるので、一人で移住して行くことに関して、不安はありませんでした。

矢部高校卒業後は東京の大学へ進学しますが、将来は山都町のような地方の町の創生事業にかかわる仕事に就きたいと思っています。

PROFILE

（写真 手前左側から）

大林 真子さん（矢部高校 普通科3年／珠算・ワープロ部）
山都町立矢部中学校出身。卒業後は山都町役場に就職。

池田 涼さん（矢部高校 食農科学科3年／弓道部）
板橋区立志村第二中学校（東京都）出身。卒業後は東京農業大学へ進学。

荒木 涼音さん（矢部高校 普通科3年／ソフトテニス部）
山都町立矢部中学校出身。卒業後は山都町役場に就職。

藤本 りえさん（矢部高校 普通科3年／芸術部／珠算・ワープロ部）
山都町立矢部中学校出身。卒業後は熊本県庁に就職。

坂本 一茶くん（矢部高校 普通科3年／バスケット）
山都町立矢部中学校出身。卒業後は熊本駅前看護リハビリテーション学院へ進学。

奈須 雅幸くん（矢部高校 食農科学科3年／二輪車競技部）
山都町立清和中学校出身。卒業後は実家の農業の後継者になる。



緑川・五ヶ瀬川の源流域に位置する豊かな自然環境

有明海へ注ぐ「緑川」と日向灘へ流れる「五ヶ瀬川」の源流域にあたる山都町は、河川の一部で峡谷や瀑布を形成し、古くから景勝地として知られています。

平野部ではあまり見かけなくなった田んぼの生き物が良好に保全されており、豊かな自然環境の広がりや食の安全を象徴しています。



舟の口水源
九州脊梁山地から湧き出す清冽な水が、岩の割れ目や黒い岩肌を伝って幾筋もほとぼしります。清水は五ヶ瀬川へと続き、初夏には蛍が飛び交い、秋には鮮やかに紅葉します。



棚田
山都町は有機農業の先進地で、田んぼやその周辺には絶滅危惧種のタガメやゲンゴロウの仲間などが数多く生息しています。

自然観察会などの取り組み

山都町は、緑川を境に北部が阿蘇南外輪山麓に属し、南部は九州脊梁山地の北部に位置しています。それぞれ特徴的な地勢が豊かな自然環境を形成し、県立自然公園、九州中央山地国定公園に指定されています。

この二つの異なる自然環境は、他の地域に類を見ない程の豊かな生態系を育んでおり、生物の調査・研究を行っている専門家からは、九州で一番と評価されています。そこで将来を担う子どもたちが、山都町の自然の豊かさを、体験を通して実感し、自然と共存し、故郷を誇りに思う人間に育つことを目的に、「矢部郷自然観察会」をはじめとする自然観察の取り組みが行われています。さらに九州脊梁山地には、特別天然記念物のニホンカモシカや天然記念物の

豊かな自然環境を活用

町の大半を占める山林と原野。林業は林業従事者の高齢化等の理由により高くなっています。しかし、住宅建材だけでなく、近年では、木質バイオマス設備の普及に伴い、新たな森林資源としての活用と需要が期待されています。

山都町の豊富な森林資源を活用し、さらに地球温暖化防止を果たすため、平成30年度から木質ペレットや薪等を燃料として使用するストーブ・ボイラーの購入に補助金を交付する事業を実施します。



矢部郷自然観察会
1985(昭和60)年に発足。以来、棚田や通潤用水、川の生き物観察会をはじめ、山都町の自然を守る取り組みを行っています。

自然との共生をめざす、山都の営み

山都町は、町域の7割を山林が占めており、なだらかな高原状の北部と九州脊梁山地が連なる南部と起伏に富んだ独特の溪谷美を形成し、豊かな自然を育んでいます。

人の営みに自然との共生は欠かせません。その自然環境を後世にわたって維持するためには、住民一人ひとりが環境意識を高め、自然環境の維持・保全に積極的に携わることができる場をつくることも、環境活動の普及・啓発に努めることが必要です。

自然環境の維持、保全

山都町は、豊かな自然環境に育まれた生活スタイルが根強く残り、美しい景観を形成しています。景観とは、



ブナの原生林 (撮影：寺崎 彰)



冬季に条件が合えば見ることができる樹氷 (撮影：石井陽子)



ニホンカモシカ
(国指定特別天然記念物)

山岳地帯で単独行動をするヤギの仲間、日本にのみ分布する固有種です。山都町内で生息が確認されています。熊本県の絶滅危惧(1類)にも指定されています。

人間と自然が共生し、互いに調和して創りだされたものであり、その時代に生きる人間の活動を映し出す鏡ともいえます。

次の世代がこの地で豊かに生活するためには、私たちが自然と共生する生活スタイルを維持し、先人から受け継いだ景観をはじめとする貴重な財産を失うことなく、引き継いでいかなければならない責務があると考えています。

環境活動の普及・啓発

各自治振興区の「美しいまちづくり推進員」が不法投棄や河川の環境等を監視しています。地域と行政が一体となって環境を保全することにより、美しい住みよい町づくりを行っています。

次世代を担う子どもたちへ清潔な町を引き継いでいけるよう、毎年、一斉清掃を行っています。全世代が一緒に清掃活動を行い、自然とのふれあいを楽しみながら、更なる環境美化を図っています。



五ヶ瀬川・緑川の日(ゴミゼロの日)
毎年4月29日に町内一円で行われる清掃活動です。山都町では「美しいまちづくり条例」を制定し、町、町民と事業者等が一体となって清潔で美しい町づくりを推進しています。



薪・ペレットに関する補助事業
地球温暖化の防止及び森林環境の保全や、町内の豊富な森林資源の活用促進を図るために実施します(平成30年度開始予定)。山都町役場本庁ロビーにも、薪ストーブを設置しています。

山都の空は 今日もキラキラ

阿蘇南外輪山の裾野に広がる高原を渡る風、夜空から降ってくるような星々。深い緑に覆われた手つかずの渓谷と、至るところで見ることが出来る清冽な湧き水。この豊かな自然こそ、山都町の自慢です。四季ごとに変化する美しい自然の中で、体を使って思う存分遊び、楽しむことは、新しい町の魅力を発見することにも繋がります。自然を敬い、自然との共生を目指す私たちは、遊びの場もダイナミックなのです。

1 そよ風パーク

長期滞在型の農村と都市の交流施設として平成8年にオープン。宿泊施設を中心に物産館、レストラン、浴場、体験施設などあらゆる世代の人々が豊かな自然空間を楽しめる施設です。

☎ 山都町今297
☎ 0967・83・0880

2 歌瀬キャンプ場

小高い山の上のキャンプ場。電源と水道を備えたオートサイトはキャンピングカーにも対応。レンタルや設備も整っているので、初心者や秋冬キャンプにもおすすめです。

☎ 山都町菅尾1344の1
☎ 0967・83・0554

3 服掛松キャンプ場

約2万坪という広大な敷地を持つ西日本最大級のキャンプ場。囲炉裏や五右衛門風呂があり田舎暮らし気分を味わえる「田舎風ログハウス」が人気です。

☎ 山都町長崎361
☎ 0967・83・0249

4 清和高原天文台

標高700mの清和高原に位置し、夜には高原

に広がる満天の星が楽しめます。天文台の観測室には口径50cmのニュートン式反射望遠鏡を備えており、月や惑星を観測することができます。「清和高原の宿」に宿泊すれば、じっくりと天体観測ができます。バーベキューや軽食のあるレストラン「星座の森」も併設されています。

☎ 山都町井無田1238の14
☎ 0967・82・3300

5 井無田高原キャンプ場

阿蘇南外輪山の裾野に位置するキャンプ場。松林に囲まれ、静かで落ち着いた雰囲気の中キャンプが楽しめます。

☎ 山都町井無田1382
☎ 0967・82・3210

6 緑仙峡フィッシングパーク

緑川の源流近くにあり、周囲を原生林に覆われた渓流釣りの人気ポイントです。テントサイトやバンガローを備えており、春から秋にかけて、家族連れなどで賑わいます。

☎ 山都町緑川2012の11
☎ 0967・82・3224

7 青菜の瀬

山村の食生活や生活を体験できる、交流促進施設です。名前のとおり青々と繋がる大自然の中にあり、カヌーやボート遊びも楽しむことができます。いろいろがある和風のロッジがあり、テントの持ち込みもできます。

☎ 山都町緑川3715の1
☎ 0967・82・3511

8 猿ヶ城キャンプ村

鮎の瀬大橋から川をのぞき込むと下流側の谷深い緑川の渓谷にこのキャンプ場があります。ここでは都会の方には特に、日常とは全くかけ離れたキャンプを満喫できます。

☎ 山都町白藤403の1
☎ 0967・72・1222

星めぐりの歌 宮沢賢治

あかいめだまの さそり
ひろげた鷲の つばさ
あをいめだまの 小さいぬ、
ひかりのへびの とぐろ。
オリオンは高く うたひ
つゆとしもとを おとす、
アンドロメダの くもは
さかなのくちの かたち。
大ぐまのあしを きたに
五つのばした ところ。
小熊のひたいの うへは
そらのめぐりの めあて。



(写真) 清和高原天文台

自治振興区ごとの 地域づくり

「地域でできることは地域自ら取り組む」という考えのもと、自治振興区制度を設け、「山の都」独自のまちづくりをすすめています。主に旧小学校単位ごとに設置しており、現在28の自治振興区が設立されています。

「やまとが輝く28の未来図」

住民が主体となって自治振興区毎にワークショップを開催し、「地域の宝」や「キャッチフレーズ」、「取り組み目標」などを話し合い、地域ビジョン「やまとが輝く28の未来図」を作り上げました。これを元に、自治振興区の個性を活かした住民主体による地域活動が推進されています。

地域の独自性を活かして

東竹原自治振興区では、在来種の「みさを大豆」を栽培し、収穫祭を行っています。また、御岳自治振興区では、地区で「みたけ竹灯り」を開催。竹灯りに包まれた幻想的な雰囲気を楽しみに多くの来場者が訪れ、地域の活性化に繋がっています。その他の自治振興区でも多種多様な取り組みが行われています。



みさを大豆収穫祭
「東竹原自治振興区」では、地区で分担して「みさを大豆」を栽培しています。収穫した大豆を会場に持ち寄り、昔ながらに「ブリコ」を使って脱穀します。収穫祭では、みさを大豆の水煮などの加工品の販売も行われます。



みたけ竹灯り
「御岳自治振興区」の「みたけ竹灯り実行委員会」が主催し、地域活性化を目的に開催されています。

暮らしたくなる 魅力的な住環境

近年、山都町に多くの方が移住されています。住みよい山都町の魅力を住民自ら発信することや、町や集落が一体となり移住者を受け入れる体制を築くことが移住につながっています。

移住・定住のサポート

平成27年度に移住・定住の窓口として「山の都地域しごとセンター」を開設しました。移住・定住のサポート

高齢者・障害者福祉の充実

山都町では、地域のあらゆる住民が「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいとともに創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを計画的に推進しています。また、施策の内容や提供方法などについて、地域自立支援協議会などを活用し、当事者やその家族、関係団体の意見やニーズの把握に努めています。

豊富な歴史的・ 文化的資源

「山の都」の固有の歴史・風土を大切にし、郷土への愛着を育む「山の都」づくりを目指しています。

※詳細は本冊子5〜12ページをご覧ください。



五老ヶ滝
(国指定名勝「肥後領内名勝地 五郎が瀧」)
(県指定天然記念物)
矢部48滝の中で最大の規模を誇ります。50mの高さから滝壺に流れ落ちる様子は壮観で、遊歩道上部の展望所、吊り橋、滝壺近くからも見ることができます。



「山都塾」等で高齢者が先生となり、町固有の歴史や風土を守りながら先人から受け継がれてきた知恵を次世代に繋いでいます。



山都町観光文化交流館(やまと文化の森)
観光文化の情報発信拠点として、平成29年4月に開館しました。館内では山都町の伝統文化を紹介するコーナーや、阿蘇氏に関する歴史の展示があります。



毎年1月下旬に開催されている「九州山地神楽祭り」。山都町の神楽保存会をはじめ近隣町村の保存会による伝統の舞が披露され、多くの方が観覧に訪れています。



池尻の唐傘(からかさ)松
(県指定天然記念物)
山都町上川井野の丘陵先端にあるアカマツで、樹形が唐傘に似ていることから、このように呼ばれています。樹齢は300年以上とされています。(撮影：尾上利弘)



大川阿蘇神社農村舞台
(国登録有形文化財)
舞台北東隅に付属してある浄瑠璃棚と、正面間口全体を開き、上部全幅に梁を渡してある構造はとても珍しいものです。毎年秋に「薪文楽」で、清和文楽が上演されています。

私たちの町「山都」

移住者編

山都町では、移住・定住を促進するために「短期滞在施設」を設けたり、移住希望者向けの情報サイトを整備したりと、移住・定住（希望）者を支援する取り組みを行っています。

では、実際の移住・定住希望者は、どのような経緯で山都町への移住を希望し、移住後はどんな暮らしを送られているのでしょうか。ここでは2組のご家族のケースをご紹介します。

富山県出身の上田裕之さん（30歳）と、熊本県宇城市出身の佳奈さん（31歳）ご夫妻は、2016年3月に山都町へ移住して来ました。お二人は、それぞれの独身時代にワーキングホリデーでオーストラリアに渡って生活している時に出会い、その後海外を旅した後、帰国してご結婚されました。結婚後は、どちらかの実家の近くに住む予定で候補地を探していましたが、いつか出産や子育てをする時が来ることを考え、佳奈さんの実家のある熊本県に住むことを決めました。オーストラリアにいる頃から有機農業と飲食業に興味を持っていたお二人は、熊本県内で有機農業の勉強ができそうな場所を探している時に、山都町のことを知りました。

ちょうどその頃、裕之さんの所に『山都町内にある飲食店で従業員を募集している』という話が舞い込んで来ました。「これも縁だな」と思い、興味のある山都町がどんな町かを知るためにも、その飲食店で働いてみることにしました。それが山都町に来たきっかけです。

移住先は決まったものの、山都町で住む家が見つからず、役場の『山の都創造課』へ行つて相談してみたところ、『短期滞在施設』を紹介してもらったことが出来た。

そこにしばらく住んだ後、働いている飲食店のご主人に今の家を見つけてもらい、引っ越ししました。

裕之さんが飲食店で働き始めて一年が過ぎた頃、長女麻心（まこ）ちゃんが誕生。「その頃は飲食店の仕事がとても忙しく、毎日が家と職場の往復だけで過ぎていくような感じでした。妻の育児のサポートも出来ず、このままでいいのかなと、悩む日もありました。秋になり、あるイベントに出かけて行った時、山都町で有機農業をしている農家の方々と偶然知り合う機会がありました。自分の心境を話す親身になって聞いてくれ、また、アドバイスも頂くことが出来ました。そろそろ農業の勉強がしたいと思っていたこともあり、一年半お世話になった飲食店を

辞めることにしました。そして現在は、知り合った有機農家さんのところへ研修に通いながら、農業の勉強をしているところなんです。

最初はお試し感覚で始めた山都町暮らしでしたが、農家さんとの交流が始まったことをきっかけに、「この地でやっていこう、という気持ち」が固まりました。」と語る裕之さん。

一方、佳奈さんは移住してからずっと、山都町の人たちとの交流の機会がほとんどなく、主人は朝から晩まで仕事で家にいないので、話をする相手も誰もいなくて一人でも不安になることもありました。子どもが生まれてすぐの頃、町の子育て支援センターに2回ほど行きました。が、たまたま2回とも利用者が私たち親子だけで（笑）その後足が遠のいてしまつて・・・でも農家さんたちとの交流が始まつてからは、小さいお子さんがいるご家族もいらつしやるので子育ての話をする

相手も出来て、山都町がとても居心地の良い場所になりました。」と、嬉しそうに話してくれました。

「人との繋がりさえ出来れば、山都町はとても暮らしやすい場所」と話すご夫妻。「ここは、何と言つても空気が澄んでいてきれいです。不便な場所だと言う人もいますが、もっと不便な場所には世界にはたくさんあるし、自分たちにとっては、住む環境としての利便性と自然環境のバランスがとても良い場所だと感じています。」「今後は、農業で生活のベースを作つて、その後ずっとやりたかった飲食業をやりたいです。専業農家というよりも、自分たちの好きなことや得意なことを活かしていけたらいいなと思っています。」

も思案されています。

最後に、「山都町は、これからどうなっていくか、と思われませんか？」という質問をされると、お二人から、「今のままがいいんじゃないでしょうか。今の山都町がいいと思つたからここに来ました。活性化して便利で都会っぽくなつてしまつたら、山都町らしさがなくなつてしまつて残念に思うでしょうね。」という答えが返つて来ました。

福岡県出身の植村祐介さん（32歳）と、和歌山県出身の真穂さん（39歳）ご夫妻は、2017年6月に山都町へ移住して来ました。現在、犬二匹、ヤギ一頭、鳥骨鶏二羽と一緒に暮らしています。

山都町へ移住する以前は、お二人ともインドで生活をされていました。祐介さんは、当時勤めていた会社の転勤でインドへ。ちょうど同じ時期に、旅行が好きで真穂さんは、過去に訪れて気に入っていたインドに単身で移住。それから

半年が経つた頃、お互いの仕事を通じて出会い、現地で結婚式を挙げてご結婚されました。祐介さんのインド勤務が終わつたことをきっかけに、真穂さんも会社を辞め、日本へ帰国されたお二人でしたが、転勤が多く忙しい毎日を送っていた祐介さんは、もっと自分らしい人生を送りたいと考えるようになり、会社を辞めることを決意。夫婦で新しい生き方を探し始めました。

祐介さんは以前、熊本県内に転勤になったことがあり、その時の暮らしに好印象をもつていたので、新しい生活の地を熊本に決めました。また、二人とも有機農業に興味があったので、熊本市植木町にある有機農業団体の農業研修に2週間ほど通いました。やってみると楽しくて、農業が出来るところに住みたいと思うようになり、そこで、「熊本」有機農業」というキーワードで移住先を探し始め、有機農業が盛んな町として「山都町」という町があることを知りました。タイミング良く山都町で地域おこし協力を募集していたので、夫婦で応募。二人とも採用されることになり、山都町への移住が決まりました。

来るまでは「山都町」という町があることすら知らなかったというお二人ですが、「夜、外に出ると星空



2017年6月に移住して来た植村祐介さん、真穂さんご夫妻と、愛犬のヒジキ（左）とチャパティ（右）

がとても近くに感じて感動しました。幼い頃に来たはずはないのに、どこかこの風景に懐かしさを感じて・・・そんな山都町の風景が好きですね。」と話す祐介さん。

「人がとても親切だと思います。野菜は近所の方に頂くことが多い。ほとんど買わずにすんでいます。買っているのはビールくらいですね（笑）」と話す真穂さんは、地域おこし協力を隊として、2017年に山都町米生に新設された「ジビエ工房やま」とに勤務し、狩猟免許（銃猟と罟猟の両方）を取得。猟友会にも入会し、「今は仕事が忙しく時間がとれませんが、いずれは鉄砲所持の許可をとって、狩猟もやってみたいと思っています」と、意気込みを語ってくれました。また、ジビエ工房やまなどで廃棄されている鹿の角や獣の皮などを有効活用する取り組み



鹿の角や獣の皮を有効活用できないか思案中。

移住者の暮らしを取材して掲載しています

山都暮らし人交流サイト



山の都地域しごとセンター

【事業内容】

「空き家事業」「仕事支援事業」
「移住者支援事業」

熊本県上益城郡山都町下市158
TEL 0967-72-9111



2016年3月に移住して来た上田裕之さん、佳奈さんご夫妻と、長女の麻心ちゃん

民間事業者との連携や 広域連携

山都町では第2次山都町総合計画に基づき、効果的な行財政運営に努めています。

公共交通施策について

山都町では、町民の日常生活のための交通手段を確保するため、平成20年4月から山都ふれあいバス（コミュニティバス）を運行しています。町内を主として、スクールバス専用路線を含む33路線を町が所有する自家用自動車を用いて運行しています。

また、国道218号、445号などの幹線道路については民間の路線バスが運行しており、熊本市圏への移動のための地域間幹線系統として、その維持・確保を図るため、補助金を交付しています。

人口減少及び少子高齢化が進む中、地域に最適な交通手段の確保や高齢者等が外出しやすい交通体系の構築などが課題となっています。そのため、平成30年度に地域にとって望ましい公共交通のすがたを明らかにするためのマスタープランである「地域公共交通網形成計画」を策定することとしています。

山都町関連ホームページ・SNS情報

フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ラインには山都町の公式アカウントがあります。



🔍 熊本県山都町 で検索してください。

YouTube

【公式】山都町山の都創造チャンネル
【公式】山都町議会チャンネル

🔍 山都町ホームページ

www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/

🔍 山都町観光ナビ

www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/kanko/

🔍 山都町商工会

yamato-shoko.com/

🔍 山都町観光協会

kumamotoyamatour.wixsite.com/mysite

🔍 清和文楽館

seiwabunraku.hinokuni-net.jp/

🔍 そよ風パーク

www.s-kaze.jp/

🔍 山都暮らし人交流サイト

www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/ijyuu/

🔍 山の都地域しごとセンター

www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/ijyuuhp/a0028/MyHp/Pub/

町立保育園の再編

平成26年度に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、矢部地区公立保育園3園の統合を進めるとともに、蘇陽地区保育園1園の民間移管を行いました。これにより、園児数が少ない環境から、統合後は同年齢児の集団保育の実施が可能となりました。また、民間保育園等と連携し、交流及び支援を強化することにより、保育の質の向上や均一化を図り、全ての保育園利用者に対して満足度の高い保育園運営ができるようになりました。

統合後の山都みらい保育園には、地域の子ども・子育て支援を拡充することを目的として、子育て支援センター及び病後児保育室を併設し、子育て世帯への支援を強化する取り組みを行っています。

老人ホームの民営化

町立養護老人ホームの民営化によって、民間の専門的な管理・運営体制や、スタッフの配置、施設の連携・活用が可能となり、サービスの向上が実現しました。

効果的な情報発信の強化について

発信する内容やターゲットに応じて、適切な時期に、広報誌や町公式ホームページ、ソーシャルメディアやノンペイドパブリシティの活用など、様々な手法で、効果的な情報発信を行っています。

※ソーシャルメディアの活用は平成30年春以降を予定。

「輝く！みんなでつくる『山の都』のものがたり」を目指して

九州の真ん中「九州のへそ（商標登録）」に位置する山都町（やまとちょう）は、平成17年に3町村（矢部町、清和村、蘇陽町）が合併して誕生しました。合併以前は2万人超だった人口が現在では1万5千人に減少し、高齢化率は45%超と、非常に速いスピードで高齢化が進んでおりますが、まだまだ現役で活躍されている高齢の方々も多く、子どもからお年寄りまで生き生きと暮らす町です。

町域は広く、世界最大級の阿蘇カルデラを形成する南外輪山のほぼ全域をおさめ、南側は九州脊梁山地に接しており、準高冷地の気候です。豊かな自然環境を活かした農林業を基幹産業とし、水稲や夏秋野菜を中心に、茶・果樹・原木しいたけ栽培や肉用牛飼養などを組み合わせた複合経営が盛んに行われています。また、40年以上前から有機・無農薬栽培など環境に配慮した農業に取り組み、県内自治体で初となる「くまもとグリーン農業推進宣言」を行いました。

平成30年度中には、九州中央自動車道（九州横断自動車道延岡線）が北中島IC（仮

※布田保之助について、詳細は本冊子5〜6ページ「山の叡智のものがたり」をご覧ください。

称）まで開通し、町の中心部矢部IC（仮称）までの区間も事業中と、観光産業の更なる発展が期待されるところです。

町内には、江戸時代に建設された日本最大級の石造アーチ水路橋「通潤橋（つうじゆんきょう）」をはじめ、大川阿蘇神社農村舞台、新八代屋、幣立神宮などの歴史的建造物や、火伏地藏祭り、八朔祭、清和文楽、神楽などの豊かな伝統文化が継承されています。

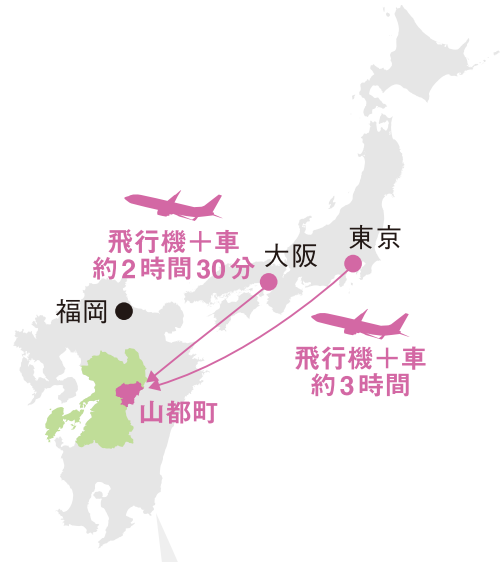
どんな困難にも毅然と立ち向かい通潤橋の架橋を成し遂げた布田保之助（翁の精神を胸に、永年にわたりこの地に伝わる伝統や文化を守り続けてこられた方々に敬意を表し、住民の皆様とともに、持続可能な町づくりを進めて参ります。



山都町長 梅田 穰

山都町への (山都町役場本庁) 交通アクセス

TRAFFIC ACCESS



空港

熊本空港(阿蘇くまもと空港)
から約 35 km

- 自動車約 50 分
- バス約 2 時間(馬見原まで)
◎産交バス「特急たかほ号」
町内の停留所
二瀬本、蘇陽支所、馬見原のみ

駅

熊本駅から約 42 km

- 自動車約 1 時間
- バスは熊本交通センター
から乗り換え

バスセンター

熊本交通センターから約 41 km

- バス約 1 時間 30 分
◎熊本バス

博多バスターミナルから約 140 km

- バス約 2 時間 30 分
◎宮崎交通「ごかせ号」

延岡駅前バスセンターから約 85 km

- バス約 2 時間
◎宮崎交通「ごかせ号」

インターチェンジ

矢部 IC(仮称)※開通年度未定

北中島 IC(仮称)

- ※熊本市方面のみのハーフインターは
平成 30 年度開通予定
- ※矢部 IC(仮称)方面のみのハーフインター
は開通年度未定

小池高山 IC から約 28km

- 自動車約 40 分

御船 IC から約 30 km

- 自動車約 45 分

益城熊本空港 IC から約 33 km

- 自動車約 50 分

松橋 IC から約 36 km

- 自動車約 50 分

お問い合わせはこちらまで

やまとちょう
山都町役場 本庁

〒861-3592
熊本県上益城郡山都町浜町 6 番地
TEL 0967-72-1111(代表)

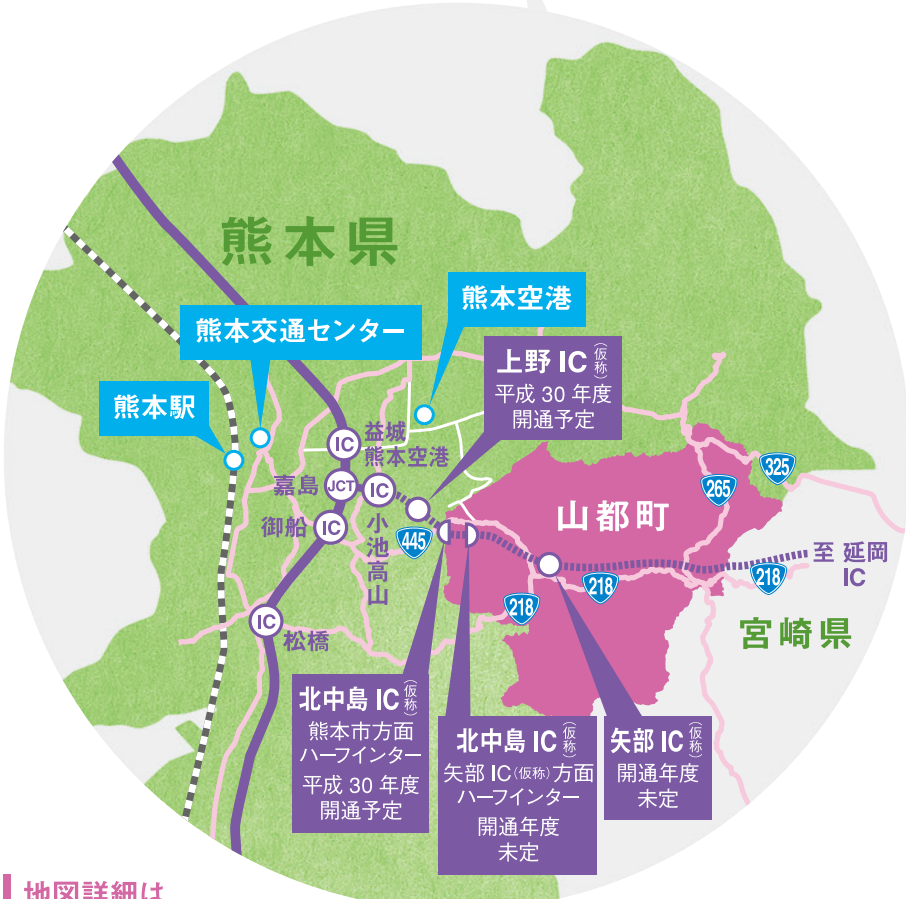
山都町役場 清和支所

〒861-3811
熊本県上益城郡山都町大平 385 番地
TEL 0967-82-2111(代表)

山都町役場 蘇陽支所

〒861-3913
熊本県上益城郡山都町今 500 番地
TEL 0967-83-1111(代表)

【発行年月】2018 年 3 月
【発行】山都町



地図詳細は、
P4 をご覧ください。



山都町の町章

山都町の「山」の文字で人と自然が調和する町をデザインしています。阿蘇外輪山と九州脊梁山地の緑に囲まれた町に、伝統薫るそよ風が吹くイメージを表しています。山都町らしさを町章からも感じてもらえるように町の将来像をテーマにし、町を包む自然とやさしい風が創るゆとりの空間を表現しています。

山都町のシンボルマーク

山都町の魅力が、「山から蝶(町)が羽ばたくように」というイメージを図案化しました。橋(アーチ)で、地域と地域、人と人を結び、手と手をたずさえ、町民が協力し合って、未来へのまちづくりをすすめることを表現しています。(商標登録番号 第 5835923 号)

阿蘇山麓のまち

